



発売日：2020年9月17日
定価：本体780円+税
ISBN：9784087211344

こちらから、お手持ちのスマートフォンで「集英社新書『人に寄り添う防災』」へのアクセスできます。



「人は防災の理屈で動くのではなく、思い合う心で動く」
「自らの命を守ることが、他者の命を守ることに影響する」
「避難しようとするのは、自らの命を大切だと思ってくれる誰かがいることに気づいたとき」
(本文より)

豪雨災害が頻発し、台風が巨大化する。大地震はいつ来るかわからない。
私たちは、荒ぶる自然と、どのような心構えで共存していけばいいのか。

本書は、被災地でのフィールドワークや、内閣府「中央防災会議」での議論などを紹介しながら、高齢者・要支援者の避難誘導、行政に頼らない防災コミュニティの構築、非常時において情報提供者が実践すべきコミュニケーションの要諦など、具体例に基づいた「命を守るための指針」を提言する。ロングセラー『人が死なない防災』の著者が満を持して書き下ろした、待望の新著。

目次

- はじめに—「自粛の要請」とコミュニケーション
- 第1章 荒ぶる自然災害—被災地でいま起こっていること
 - 第2章 日本の防災の大転換
 - 第3章 行政主導の防災の限界—ゼロリスク期待の幻想
 - 第4章 地域社会は災害リスクとどう向かい合うべきか
 - 第5章 災害に向かい合う人の心情を理解する
 - 第6章 コミュニティ防災の本質—地域で防災を考える

著者プロフィール

片田敏孝 (かただ としたか)

1960年生まれ。東京大学大学院情報学環特任教授。日本災害情報学会会長。専門は災害情報学・災害社会工学。

災害への危機管理対応、災害情報伝達、コミュニケーション・デザイン等について研究するとともに、内閣府中央防災会議や中央教育審議会をはじめ、国・外郭団体・地方自治体の多数の委員会、審議会に携わり、防災行政の推進にあたっている。

著書に『人が死なない防災』(集英社新書)など。

